

令和5年10月18日

報道機関各位

熊本大学

大学院教育学研究科の井福裕俊教授と坂本将基准教授の研究グループが、第36回「日本体力医学会 学会賞（体力科学）」を受賞しました。

この度、熊本大学大学院教育学研究科の井福裕俊教授と坂本将基准教授の研究グループが、第36回「日本体力医学会 学会賞（体力科学）」を受賞しましたのでお知らせします。

この賞は、令和4年発行の学会誌「体力科学」に掲載された論文の中で、学会賞選考委員会により「最優秀」として高い評価を受けた論文に授与されるものです。令和5年9月17日（日）に早稲田大学で開催された「日本体力医学会特別大会—2023 東京シンポジウム—」において、受賞論文表彰及び講演が行われました。

受賞対象となった論文は、体力科学71巻6号掲載の「運動習慣のない女性起立性低血圧者は、立位時における下肢抗重力筋の筋機械受容器反射が小さい」（中山貴文*、坂本将基、井福裕俊）です。

ヒトが起立すると、重力の影響により血圧は低下しますが、圧受容器反射により血圧を元に戻そうとします。さらに、下肢の抗重力筋が収縮するため、筋機械受容器反射と静的な筋ポンプ作用の2つの機能も血圧の維持に関与します。しかし、血圧調節に及ぼす下肢抗重力筋の働きの全容は明らかにされていませんでした。一方、起立性低血圧症は、起立時に血圧低下や立ちくらみなどを伴うもので女性に多く見られますが、その発症機序など未だ不明な点が多くあります。

本研究では、「運動習慣のない女性起立性低血圧者は、立位時の血圧調節に及ぼす下肢抗重力筋の作用が弱い」という仮説を立て、この仮説を検証するために、女性起立性低血圧者の運動鍛錬群と非鍛錬群、そして起立性低血圧者でない女性非鍛錬群に4種類の体位変換試験を実施し、循環応答を比較しました。その結果、上記の仮説は、下肢の抗重力筋の機能の中でも筋機械受容器反射が小さい点に見出すことができました。

本成果は、立位時の血圧調節における下肢抗重力筋の働きを、運動習慣のない女性起立性低血圧者で明らかにした新たな知見であり、起立性低血圧症の予防や治療に寄与することが期待されます。

* 本学教育学部卒業、本学大学院教育学研究科修了。現在、九州中央リハビリテーション学院理学療法学科副学科長。

【お問い合わせ先】

教育研究支援部 人社・教育系事務課 教育学事務チーム総務担当

TEL : 096-342-2517 E-Mail:kyo-somu@jimmu.kumamoto-u.ac.jp